

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム さくら

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370400426		
法人名	社会福祉法人 憲幸会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字十日市85		
自己評価作成日	平成 29年 8月 19日	評価結果市町村受理日	平成30年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=detail_2015_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0370400426-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=detail_2015_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0370400426-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 8月 30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\*利用者様と職員の絆を超えた人間としての信頼関係づくり。  
\*利用者同士が自然と互いに助け合えたりするスムーズな付き合い。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営主体の変更を契機に新たな理念として「ひとり1人に寄り添い共に楽しく笑顔になれる生活」を職員が話し合いを重ねて作成した。地域に開かれたグループホームを目指し、現在、その理念の共有・実践に向けて利用者が笑顔でのんびり自由に落ち着いて、マイペースで暮らすことが出来るようにと、寄り添いを強めながら個別対応の実践に努めている。管理者のもと、職員はお互いを信頼しあい、協力しあって利用者の支援に努めている。民家は点在しているが、農村地域の皆さんの優しさや思いやり、助け合いの中、避難訓練に皆さんの参加協力を得るなどして、事業所は、新たな一歩を踏み出している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティング、月1回は設けている部署会議などで話し合い共有するよう努力しています。	職員は全員で作成した「理念」を共有し所内ミーティング、職員会議の際に、理念をベースとしたケアについて話し合い、職員の目線や方向性をすり合わせしながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の認知症カフェに参加、買い物、佐倉河まつり、事業所開催の憲幸会祭り、運営推進会議等で交流を行っています。	事業所として、町内会に加入している。同一敷地内の事業所と合同で法人が主催する夏祭りには、近隣の方々が多く集い、また、地域の文化祭等の行事と併せ交流の機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当会の在宅支援センターの職員が各行事の参加し民生委員、地域の方々との交流を図り認知症をご理解いただいている。又、保育園児や踊りの会等の慰問、運営推進会議などにより、ご理解、ご支援を頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回設けられている運営推進会議には、地域包括センターの方、民生委員様、区長様、ご近所様等出席頂き、毎回貴重な意見を頂いています。	運営推進会議は、隔月に開催している。事業所や利用者の状況報告などを報告しているが、災害時の避難対策や事業所での「誤薬」について厳しい意見も出されるなど、積極的・有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当会、居宅事業所、在介支援センターの職員の活動や、運営推進会議などで協力関係をきずいている。	市直営の地域包括支援センターとは、運営推進会議、介護認定の更新等を通して、密に連携を取っている。定期的に介護相談員が事業所を訪問して利用者や家族の相談に応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修でも身体拘束は行っている。出来る限りしないように努めている。が、根拠のある時は、施錠がやむをえない時がある。	緊急避難的な対応として玄関を施錠することはあるが、いつも日中は施錠していない。言葉による拘束は発生しやすい事もあり、お互い気をつけあい注意しあい、また職員会議等で研修を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、講習会にて理解を深め、言葉遣い、玄関施錠、ペット柵など防止に努めている。言葉遣いなどは、注意しているつもりでも、毎日の業務に追われ、失礼が無かったか日々考えてしまう職員も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている利用者さんがいらっしやり、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書での説明、重要事項説明書にてご理解を頂いている。入居時調査票にも記入を頂き、思いの共有化を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にて説明のほか、運営推進会議、様々な行事など交流の場で、意見要望を聞く機会を設けている。	同法人は、「憲幸会だより」を発行し、事業所からも毎月、家族に利用者の写真を送付して利用者の生活の様子を知らせ、事業所、職員が身近な存在になるように努めている。家族が来訪した際には、職員から声掛けをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、部署会議、全体会議など意見交換の場が有る。又、施設長も度々さくらを訪れ、気軽に話が出来る環境にある。	ミーティング・職員会議・全体会議の際、職員の意見や提案を把握するように努めている。運営に関する意見等は出されないが、職員からはミキサー食用のミキサーの取替えなど備品に関する提案がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就学、資格取得、各種研修会への協力など支援を惜しまない環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各外部研修への積極的な参加、月1回の内部研修、資格取得など支援を惜しまず行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	家族介護教室、夏祭りには情報を発信し、同業者の参加を呼び掛け交流の場作りをしている。又、グループホーム協会に加盟し、情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最近と同法人が運営している他事業所からの転居もあり、他事業所からの申し送り、ご家族との話し合い、ご本人様との交流に力を入れて、職員同士情報共有をし、安心して日々過ごされるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当事業所は、遠方にご家族がいらっしゃる方が多く、サービス導入の段階では要望に出来る限り耳を傾けている。電話での連絡も度々行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当会居宅事業所や在介支援事業所、又は包括支援センターからの情報を得て、ケアに繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎回ではないが、一緒に食器洗いや掃除を行ったり、3食一緒に食事をしたりと生活を共にしている。何でも話し合える様な関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方にいらっしゃる方が多く、難しいが、電話での連絡は時々取って様子をお伝えしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が遠方の方が多く、受診対応を職員がしなければならない。なかなか、馴染みの場所への外出は困難な事が多い。	友人、兄弟、親戚の方々が利用者に気楽に会いに来ていただけるよう面会の際は、居室に案内している。年々、馴染みの関係等が少なくなってきた。利用者の同級生からの面会希望があった際は、家族から意向を聞いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の揉め事には、職員がそれぞれの利用者を橋渡しし、それとなくフォローしている。陰悪な感情の表出も重要な精神活動である事を、職員は理解している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡頂いた場合は、丁寧に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始には、ご本人、ご家族にお会いしお話を伺いし、入居時調査票も記入頂いている。ご本人の希望を気軽に言いやすい関係を築く努力をしている。	介護記録や申し送り事項を活用して利用者の意向を把握し利用者の生活スタイルを尊重した支援を心がけている。職員は、ADLの低下とともに思いを言葉にできない利用者の意向把握に戸惑うこともあるが、日々のかかわりの中で汲み取るよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始には、ご本人、ご家族にお会いしお話を伺いし、入居時調査票も記入頂いている。様々な角度から、実態を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティング、部署会議などでその方の心身の状況を話し合い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング、部署会議などでその方の心身の状況を話し合い、把握に努めている。カンファレンス、モニタリングを定期的に行い、介護計画に反映させている。御家族の思いも汲み取るよう努める。	毎月モニタリングを実施し、職員全員参加のカンファレンスを経て3カ月ごとに介護計画を見直している。職員は担当制をとっているが、担当にこだわりすぎず柔軟に対応するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の行動、言動を支援記録や日誌に記入し、その方のカンファレンス、モニタリングに生かしている。又、職員同士、口頭でも情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のミーティング、月1回の部署会議、カンファレンスなどで話合っているが、上手く取り込めているかは不安です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居の方が重度化していることも有り、上手く支援出来ていない。社会資源もインフォーマルな部分で把握できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急の場合を除き利用開始の際から、かかりつけ医に受診対応をしている。受診時には、より適切な診察が受けられるよう支援している。	入所前からのかかりつけ医となっているが、利用者家族と話し合い、訪問診療に変更した利用者もいる。通院は、家族同伴となっているが、家族からの依頼により、職員が受診同行することもある。日頃は隣接の法人看護師の支援を受けながら健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に、当会看護師が関わっている。折々気付いた事を、受診時に反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時提供票を作成し、治療に役立てて頂いている。入院中は、病院と連絡を取り、情報収集に努めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度の重い方もいらっしゃいます。話し合いは、上手く出来てはいないかも知れません。	重度化、終末期に関する指針の策定はなされていないものの事業所において出来る限りのところまで対応している。看取りへの対応については、職員の資質向上や医療・看護との連携を含め、法人とも協議しながら対応方針の検討を進めていきたいとしている。	対応方針の検討と合わせて、利用者や家族、職員の安全安心にもつなげるためにも、看取り等終末期に関わる職員の研修や勉強会の取り組みを始められることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	血圧計、体温計、パルスオキシメーターを常備し、連絡手順など訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に、定期的に訓練を行っている。地域の区長さんにもご協力のお話している。	年2回、利用者が参加して同一敷地内の法人事業所と合同で昼夜を想定した火災時の避難訓練を実施している。職員も消火訓練、AED研修を重ねている。運営推進会議委員を含め、近隣の協力(見守り)体制を整えるべく、その取り組みを進めている。法人で災害用備蓄をしている。	運営推進会議において協議を重ねるなどして、地域の方々の応援体制をつくっていくことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護上やむ得なく、ご家族の了承を得、ホールで休まれる方がいらっしゃるが、スクリーンで保護はしている。言葉遣いなども配慮しているつもりだが、誇りを傷つけていないか不安はある。	利用者の尊厳に配慮した支援を心がけている。介護記録や申し送り事項を活用して利用者の意向把握に努めている。職員は、ADLの低下とともに思いを言葉にできない利用者の意向把握に戸惑うこともあるが、日々のかかわりの中で汲み取るように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で無理強いせず、ご本人の意思を優先するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員同士の連絡を密にし、利用者の希望に添える様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に契約している理髪店の方に訪問して頂いています。洋服も、ご本人の希望があれば選んで頂いたり、職員が選んだり身だしなみに気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者と職員と一緒に食卓を囲み、楽しく行なっている。後片付けも、出来る利用者の方に手伝って頂いています。	職員が利用者と一緒に食卓を囲み、楽しく食事ができるようにしている。献立や調理は職員が交代で担当し、利用者の希望を取り入れ献立を考えている。食材の買い出し、下ごしらえや後片付け等、利用者も一緒に行っている。誕生会や事業所の行事の際は、特別食を提供し、利用者に喜んでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	たまに栄養士の指導を受け、栄養バランスも考え、その方に合った形態で提供している。水分量、食事量もチェックし健康状態把握に役立っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度の重い方はオムツ対応ですが、歩行可能な方は、それとなく、声がけ、見守り、パット交換の手伝いをしています。	立ち上がりが難しい利用者は、無理にトイレ誘導しないで、利用者の気持ちに寄り添った支援を心がけている。リハビリパンツの利用者は、排泄チェック表を参考に様子を見ながら声掛けして、トイレで排泄できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜の摂取に気を付け、ヤクルトを取り入れています。又、状況に応じ、看護師の指導の下、下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず行っている。失禁した場合は、急遽、シャワー浴をしてさっぱりして頂くこともある。	男性職員はいないため、男性利用者は異性介助となっているが、利用者を受け入れられている。午後の時間帯に週に2～3回入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望に御応じて休んで頂いている。が、昼夜逆転にならないよう、職員は声がけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、お薬情報を保管し、薬の情報は職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時調査票にて生活歴の把握に努めている。職員との会話の中でも、情報収集に努め、買い物、散歩など支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	受診対応や利用者の介護度重度化により、気軽に外出出来ないのが現状である。が、出掛けられる時は、認知症カフェや散歩、買い物など出掛けるよう支援している。	日常的には事業所ベランダでの日光浴や、近隣を散歩しながら気分転換を図っている。利用者からの意思表示はあまりないが、同法人の認知症カフェ、買い物、季節を感じられる場所へのドライブなど、本人の希望に沿って機会をつくり出すようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心の為、小銭を持っている方はいらっしゃるが、実際に、お金を使える方は居ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	介護度が進み、はがきを書く方もいらっしやらなくなったが、電話では、職員に促されご家族と話される方がいらっしやいます。しかし、自らの意思でとなると難しいです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、利用者が描いた得絵など飾っており、好きな時に自由に過ごせるよう清潔な空間を提供できるよう心掛けている。介護の必要上、ホールで休まれる方もいらっしやるが、スクリーンで目隠しをしている。	事業所は、スプリンクラー、エアコンが備えられている。所内の周囲は、水田地帯で、桜の木もあり、すばらしい眺めである。天気の良い日には、ウッドデッキでくつろげるように配慮されている。廊下や居間には、利用者や家族を撮影した写真や、絵が飾られ、落ち着いた雰囲気が感じられるように工夫している。清掃も徹底されており居心地の良さが実感される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、一人で過ごせる場所も準備しており、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いし、写真や使い慣れた家具など置き、居心地の良い空間を作っている。しかし、そうできていない方もいらっしやります。	居室には、ベッド、クローゼットが備えられ、車いすでも十分な広さがあり、整理ダンス、ラジオ、時計、位牌、家族写真等、利用者が思い思いのものを持ち込み居心地の良い空間となっている。着替え等は備え付けのクローゼットに整理整頓され、清掃も共用空間同様に徹底されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは赤で印をつけている。居室は、花の絵で入口が分かるよう印を付けている。台所からはホール全体が見渡せ、それとなく見守りが出来るようになっている。		